

越谷地域の町村の変遷

——市制50周年を迎えて——

加藤幸一

昭和33年11月3日の越谷市誕生当時の地方自治法では、市となる要件は、人口が5万人以上、その中心となる市街地の戸数が全体の6割以上などと規定している。

市制に対する市民の見解を知るために、市役所が翌年に中学校生徒の保護者を対象に行ったアンケート結果によると、次の通りである。(以下は、昭和53年11月1日発行の「広報こしがや」の『市史編さんだより』より抜粋)

まず「市役所の職員」についての項目では、旧村時代より民主的で親切な感じ、窓口も便利であると好感を示した人もいた反面、昔の地主の旦那ぶりをする人もまだいる、また職員が多いのに驚いた、多大な人件費を使って徴税だけをするなら支所を廃止したらよいと答えた人もいた。

「教育関係」では、青少年の不良化防止をはじめ、高等学校の新設、教育施設の拡充などの要望が多かったが、なかには学校の増設もよいが、教育内容を考慮してほしい、今の学校は野球ばかり教育している、また農繁期には学童の欠席を認めてほしいなどというものもあった。

「産業建設関係」では、道路や橋梁の改修、用排水路や下水道の工事促進を訴えたものが多かったが、道路の砂利配給が不公平である、市長や部長は各地域をみて廻る必要があると苦言を述べる者もいた。とくに当時盛んであった工場誘致運動に関しては、積極的に工場誘致を進め市税を下げるべきである、秩父市のように人里離れた山奥に近代的な都市がある、私は東京に近い越谷がいかに遅れた土地であるかを痛感している一人である、という意見を述べる人もいた反面、市は農地をつぶすことに積極的であるが、農地がつぶれて泣くのは農民である、農民も市民の一人である、と都市化に反対する答えもあった。

その他市民税が高い、水道が入ってからサラシ粉臭くなり、ウマイ水や茶が飲めなくなった等々数多くある。

次に越谷市が誕生するまでの越谷地域の町村の変遷を見ていくことにする。

1 江戸時代【2町49か村】

江戸時代、現在の越谷地域(越谷市内)には、2町49か村の町や村があった。

2町とは、①越ヶ谷町・②大沢町

49か村とは

- | | | | | | | |
|---------|----------|----------|----------|---------|---------|---------|
| 1 三野宮村 | 2 大道村 | 3 大竹村 | 4 恩間村 | 5 袋山村 | 6 大林村 | 7 大房村 |
| 8 平方村 | 9 大泊村 | 10 上間久里村 | 11 下間久里村 | 12 大里村 | | |
| 13 船渡村 | 14 大松村 | 15 大杉村 | 16 川崎村 | 17 向畑村 | 18 大吉村 | 19 弥十郎村 |
| 20 増林村 | 21 増森村 | 22 中島村 | 23 花田村 | 24 小林村 | 25 西方村 | 26 東方村 |
| 27 見田方村 | 28 南百村 | 29 四条村 | 30 別府村 | 31 千疋村 | 32 野島村 | 33 小曾川村 |
| 34 砂原村 | 35 荻島村 | 36 後谷村 | 37 西新井村 | 38 長島村 | 39 神明下村 | 40 四丁野村 |
| 41 谷中村 | 42 七左衛門村 | 43 越巻村 | 44 大間野村 | 45 瓦皆根村 | 46 登戸村 | |
| 47 蒲生村 | 48 伊原村 | 49 麦塚村 | | | | |

2 明治12年(1879)【郡制施行】

明治12年の新しい郡制施行にともなって、同じ郡内、あるいは隣接郡に同じ村名があることはまぎらわしいため、東西南北を村名の頭につけた。越谷地域では、24小林村は東小林(現在の菖蒲町に西小林がある)、16川崎村は北川崎(現在の八潮市に南川崎がある)、35荻島村は南荻島(現在の羽生市に北荻島がある)、36後谷村は北後谷(現在の八潮市に南後谷がある)と村名を変更している。

3 明治22年(1889)【1組合町8か村】

明治22年4月1日、日本全国の7万余りの旧町村(共同体的な自然村であった)は、1万余りの新町村(行政上の町村となる)に吸収合併され、旧町村は新町村の大字として名をとどめることになる。現在の越谷地域もこの町村合併により、1町8か村の町と村々に吸収合併される。『明治の大合併』と呼ばれる「市制・町村制」の全国実施の一環である。全国7万の自然村が、約5分の1の1万5千の行政村にかわる。

1町とは、越ヶ谷町・大沢町組合(①越ヶ谷と②大沢の2町が1つの組合町となったもの)

8か村とは、

- (1) 大袋村 (2) 桜井村 (3) 新方村 (4) 増林村 (5) 大相模村
(6) 荻島村 (7) 出羽村 (8) 蒲生村

新8か村と旧49か村との関係は次の通り。向かって左は新村名、右は大字である。

- (1) 大袋村 1三野宮・2大道・3大竹・4恩間・5袋山・6大林・7大房

それに明治4年に恩間村から分村し独立した「恩間新田」もはいる。

大道、大竹、大林、大房の「大」と袋山の「袋」を合わせて新しく作られた村名。

- (2) 桜井村 8平方・9大泊・10上間久里・11下間久里・12大里

この名前を付ける当時は、この地域の中世は河辺庄「桜井郷」に含まれていたと思われたことから、この郷名を採用した。しかしこの地域は、下総国葛飾郡下河辺庄新方郷に含まれていた。桜井郷は、これよりも北方にあったと推定されている。

- (3) 新方村 13船渡・14大松・15大杉・16北川崎(川崎)・17向畑・18大吉
19弥十郎

このあたりは、近世「新方領」の一部であったことから、この領名を採用する。

- (4) 増林村 20増林・21増森・22中島・23花田・24東小林(小林)

この地域で一番大きい村の「増林村」の村名を採用する。

- (5) 大相模村 25西方・26東方・27見田方・28南百・29四条・30別府・31千足

このあたりは、中世「大相模郷」と呼ばれたことから、この郷名を採用する。

- (6) 荻島村 32野島・33小曾川・34砂原・35南荻島(荻島)・36北後谷(後谷)・
37西新井・38長島

この地域で一番大きい村の「南荻島村」の江戸時代の村名「荻島村」を採用する。

- (7) 出羽村 39神明下・40四丁野・41谷中・42七左衛門・43越巻・44大間野

この地域を流れている「出羽堀」の堀名から採用する。

- (8) 蒲生村 45瓦曾根・46登村・47蒲生

この地域で一番大きい村の「蒲生村」の村名を採用する。

※川柳村に属した 48 伊原村・49 麦塚村について

現在の越谷地域の旧 2 町 4 9 か村のうち、旧 2 村の 48 伊原村・49 麦塚村は、現在の草加市内にある柿木村、南青柳村（青柳）と合併し、合併村の新しく作られた新村名は「川柳村」と名付けられる。

「川柳村」は、柿木の「カ」、伊原の「ハ」、南青柳（青柳）の「ヤ」麦塚の「ギ」をそれぞれとって合成してできた村名である。「カハヤギ」は「かわやぎ」と読める。現在、川柳は、「かわやなぎ」と呼ばれている。

4 明治 35 年（1902）【2 町 8 か村】

越ヶ谷・大沢の両町の組合町の分離によって、独立した 2 つの行政町となる。

2 町とは、①越谷町・②大沢町

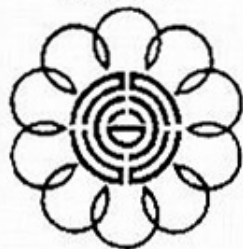
8 か村とは、前と全く変わらない。

5 昭和 29 年（1954）11 月 3 日【越谷町の誕生】

昭和 29 年 11 月 3 日、現在の越谷地域での 2 町 8 か村の町村合併により越谷町が誕生する。2 町 8 か村が一つの町になったのである。その新しい町名「越谷」は「越ヶ谷」の「ヶ」をとったものである。「町村合併促進法」によって成立したもので、その後も全国的に町村合併が進められ、『昭和の大合併』と呼ばれる。

なお、翌年 1 月 10 日に越谷町の町章が制定される。今日の越谷市の市章である。まわりの 10 個の輪は、合併した 10 町村（2 町 8 か村）を表し、中央部分の外側は、カタカナの「コ」を 4 つ集めたもので、「コ」が 4 つ、コ 4（こし）、つまり「越」を表し、中心部分は、「谷」の文字を図案化したものである。

越谷市章



6 翌年 11 月 3 日【草加町の一部が越谷町に吸収合併】

昭和 30 年 8 月 1 日に草加町に合併した川柳村のうち、48 伊原・49 麦塚・上谷が 3 か月後の 11 月 3 日に草加町から分離して、越谷町に吸収合併される。越谷町の境界線の変更である。

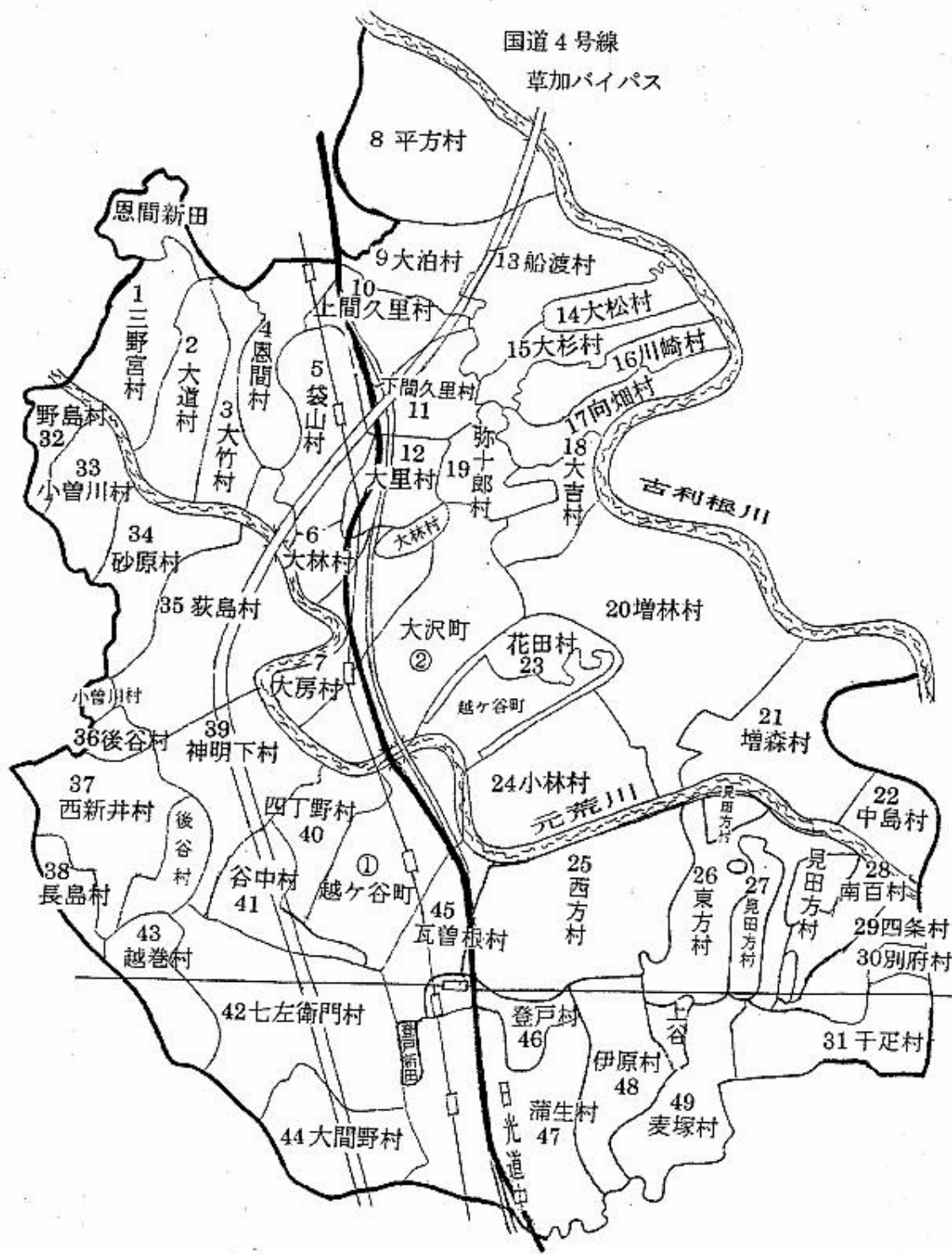
なお、上谷は、江戸時代以来、2 東方村の領分に入っていたが、東方村よりも周辺の村々との地理的な結びつきが強かったため、明治 22 年の町村合併で川柳村に仮編入し、さらに戦後の昭和 25 年の行政区画の変更により東方から離れて川柳村に正式に編入し、大相模村から川柳村に属するようになった。

7 昭和 33 年 11 月 3 日（1958）【越谷市に昇格】

越谷町は、昭和 33 年 11 月 3 日、埼玉県では 22 番目、全国では 543 番目の市に昇格し、越谷市となる。21 番目は、昭和 33 年 11 月 1 日のちよっとの差で市に昇格した草加町である。誕生当時の越谷市の人口は、約 4 万 8 千人である。

江戸時代の越谷地域

2町49か村の町や村があった



昭和29年11月3日の越谷町誕生

2町8か村の町や村が一つに合併し、新たに「越谷町」が誕生

春日部市



昭和33年11月3日の越谷市昇格

現在の「越谷市」になる

越谷市内の12地区

- | | |
|--------|--------|
| ①越ヶ谷地区 | ⑦大相模地区 |
| ②大沢地区 | ⑧荻島地区 |
| ③大袋地区 | ⑨出羽地区 |
| ④桜井地区 | ⑩蒲生地区 |
| ⑤新方地区 | ⑪北越谷地区 |
| ⑥増林地区 | ⑫川柳地区 |

上の①から⑫までの地区は旧2町8か村にほぼ相当する。ただし⑪の地区は、大房の一部と大沢の一部から成る。⑫の地区は、昭和30年に草加町の一部が越谷町に仲間入りした地区である。

春日部市



戸口 (戸数と人口) の推移

地区	本郷	年			明治9年			江馬
		文政	天保	明	人口	(男)	(女)	
		戸数	戸数	戸数				
桜井	平万	185	180	204	1052	519	533	1
	大迫	50	42	60	303	145	158	1
	大皇	50	45	48	248	122	126	
	上間久里	50	55	54	266	141	125	2
	下間久里	50	60	55	313	158	155	
新方	北川始	50	50	55	279	159	140	1
	大杉	30	31	32	189	82	106	2
	向畑	60	59	62	366	182	204	3
	大松	18	19	23	115	53	50	
	大杉	31	33	33	200	100	100	2
大袋	弥十郎	20	31	34	210	100	110	3
	船渡	108	92	112	575	250	325	3
	恩蘭	90	80	58	287	152	135	10
	黒岡新田			30	171	83	88	3
	大竹	56	45	58	308	158	150	3
	大真	87	85		393	212	181	5
	三野宮	64	60	71	353	175	178	13
	送山	70	71	85	470	250	240	1
	大林	31	32	35	193	96	97	3
	穴屋	50	55	65	315	156	157	
増林	増林	240	261	274	1517	749	768	5
	増森	130	136	156	872	440	432	2
	中島	50	35	42	206	101	105	1
	東小林	107	110	115	689	340	349	2
萩島	花田	48	47	52	358	165	195	
	砂原	64	60	67	365	181	184	5
	小宮川	62	40	49	252	126	126	1
	野島	19	18	26	143	75	72	2
	南森島	131	128	138	790	390	400	3
	北森島	31	35	38	199	91	108	2
	長森島	14	15	18	83	44	39	
出羽	西新子	74	80	87	459	221	248	13
	四丁野	66	64	76	411	205	206	
	谷中	48	49	50	295	137	158	2
	越巻	56	40	45	252	126	126	7
	大間野	54	59	59	410	215	195	
蒲生	七星宮	114	103	134	728	355	375	7
	神明下	59	54	68	396	195	201	5
	登戸	46	43	45	286	158	148	1
大相模	菅根	105	96	135	727	354	373	
	龜田方	217	217	260	1458	711	727	1
	子足	59	56	57	335	161	174	2
	別所	55	58	60	333	170	165	2
	別所	9	11	12	68	35	33	
	四条	32	28	35	199	104	95	
川柳	西原	29	29	35	179	92	87	
	西原	160	179	183	1003	484	519	3
	東原	89	105	120	657	314	345	14
大沼	上谷							
	塚原	71	78	72	406	203	203	4
大沼	伊原	75	73	82	469	226	243	6
	大沼	481	466	450	2126	1055	1071	
大沼	大沼	549	538	595	2750	1370	1380	

① 旧藩新田は明治4年に旧藩村から分村し独立。② 上は戦後まで東方領に属し東方の一町となつた。

注1 典拠 「新編武蔵風土記稿」

注2 典拠 「武蔵国御改革組合限石高村数村名録」(芝浦院大学)

注3 典拠 「武蔵国郡村誌」

繪集4-1-1 所収大石儀三郎論文参照

文政年間は1818年～1830年
天保年間は1830年～1844年